



最下羽片の下側第一羽片は長い。



中軸と羽軸に鱗片が密に付く。

区別のポイント

2回羽状複生だが、下部は3回羽状複生となる。葉柄基部の鱗片は長さ約2 cm。葉柄上部と中軸・羽軸の鱗片は長さ約1 cmの線形で密に密着して付く。

形態 常緑性のシダ植物。

分布 高知県・九州南部・沖縄

名前の由来 小さな鱗片が軸に圧着して付く様子から。

葉 **〈全体〉**葉身は卵形から卵状長楕円形で長さ25～60 cmの2回羽状複生だが、下部は3回羽状複生。**〈葉柄〉**長さ20～50 cm、褐色から黒褐色の鱗片が圧着して密に付く。中軸と羽軸にも付く。**〈羽片〉**最下羽片が最大で三角状卵形、有柄、下側第一小羽片は7番目付近の羽片と形・大きさが似ている。小羽片は長楕円形で鋭頭、基部はやや耳状で心形。

備考 西部。

出典 1 4